

Q 自立のため財政改革を

A 実質単年度収支は黒字



▲馬と触れあえる馬っこパーク

Q1

三位一体改革等により、国から措置される地方交付税が、ますます減額している。地方自治体は、依存財源に惑わされることなく、慎重な自治体財政計画を立てるべきであり、本村も年度内での実質単年度収支の黒字化を目指し、現在の地方債、一般会計170億円、下水道会計66億円等の早期の返済計画を立て、実施すべきではないか。

A1

本年2月に策定致しました中期財政計画において、実質単年度収支の黒字化を今後も持続させ、新規の村債発行を極力抑え、借金を減少させていきます。

20年度から24年度までの5年間は、毎年の償還額で元金15億円、利子3億円で推移します。村の財政規模の範囲内とすることが財政運営上望ましく、公債費残高が24年、一般会計予算規模と同程度の130億円以下になると考えています。

Q2

「お山の湯」の運営見直しは、ふるさと創生事業として、村民の健康を願い憩いの場所として立ち上げたものと理解をしているが、多額の委託費等の経費で運営をされているが、見直しなどを含め検討する考えは。

A2

効率的効果的運営を考える。これまでに24の公の施設について指定管理制に移行をし



山谷 仁 議員（新志会）

Q3

てきました。今後も、施設設置の意義や必要性等、村関与のあり方について検討してまいります。

県が委託等公募をしている「馬っこパーク」は村内にある施設として、保育園児から大人まで癒しを含め触れあってきたが、今後の関わり方について伺います。

A3

馬事文化伝承と観光振興を南部曲り家に象徴されるように、人と馬の深い文化の伝承をするための場とし、「チャグチャグ馬コ」の預託場所として、岩手山麓と併せ観光振興を図ってまいります。

Q がん対策のポイントは

A 検診率向上と早期発見



高橋 盛佳 議員
(新志会)



▲自治会で行った防災訓練

Q1 2024年度までに「75歳未満のがん死亡率を10%以上減少」を骨子とする県がん対策推進計画案に対応した本村のがん対策はどのようなものか。

A1 本村の重点事項は、「がんの予防と早期発見」「相談支援・情報提供」と考えています。がん予防としては、喫煙、食事や運動などの生活習慣の改善に関する予防知識の普及啓発に努めます。また、健診で発見された「が

ん患者」の方が、外来受診で発見された方より5年生存率が高いことを踏まえ、現在、20%から30%の各種がん検診の受診率を、県の設定目標である50%以上まで向上させることが喫緊の課題です。

自治会と連携した自主防災を

Q2

自主防災の状況と課題は。

A2

現在、15の自主防災組織が出来ていますが、具体的

活動のない自治会もあるので、大釜南自治会、国分自治会、上の山団地会（鵜飼西自治会）等「災害時に機能できる自主防災組織」を紹介しながら、組織づくりを支援します。また、昨年九月の大雨の時には、地域や自主防災組織との連携において、「災害本部からの情報が自治会等に充分伝わらなかったこと」や「現地からの情報を充分に収集できなかったこと」が反省点としてありました。今後は、防災行政無線放送だけに頼ることなく、複数の伝達処置を講じ、特に自主防災組織との連携による情報の伝達および情報の収集をしまいにります。

AED、全小中に年内設置

Q3

AED（自動体外式除細動器）の設置状況はどうなっているか。

A3

学校関係では、今年度姥屋敷小中、柳沢小中と一本木小、同中のそれぞれに設置され、2月末で15カ所の村関係施設に設置されました。今後は、20年度の早い時期に、全ての小中学校に設置する予定になっています。